

論文の内容の要旨

論文題名

成人期自閉スペクトラム症の生活，修学，就労状況に関する診療録調査

掲載雑誌名

精神科 第40巻 第6号 870-877頁 2022年掲載

医学研究科内科系精神医学専攻 博士課程 西尾 崇志

内容要旨

【背景・目的】

自閉症スペクトラム障害（ASD）は神経発達障害の一種であるが，成人期 ASD の有病率は1～1.7%と決して稀な障害ではない。しかしながら，成人期 ASD の背景，生活状況，修学状況，就労状況について，これまで明らかとなっていない。昭和大学附属烏山病院では2008年より成人を主な対象とする発達障害専門外来を開設している。本研究では，発達障害専門外来を受診し，ASDと診断された患者の背景，生活状況，18歳までの問題，修学・就労状況について検討した。

【方法】

本研究では，2008年4月から2017年3月までの発達障害専門外来における診療録を後方視的に調査した。発達障害専門外来を受診した者のうち，精神疾患の診断を満たさなかった受診者を対照群として設定した。

【結果】

ASD群（749名）の年齢は平均29.2歳，男性は約76%であった。ASDの診断を受けた年齢は，平均27.1歳であった。ASD群では対照群と比較して，結婚歴は9.9%と低く，また18歳までにいじめられた体験は46.6%，不登校は19.8%であり，対照群と比較して割合が有意に高かった。高校までに大きな差はないものの，ASD群では大学で留年や中退する割合は26.9%と対照群と比較して高く，大学卒業後に就労できた割合は67.3%と低かった。ASD群では，初診時に就労していた割合は41.3%と低かった。

【考察】

本研究により, 成人期の ASD の大部分は学童期に診断をされておらず, 生活, 修学, 就労など多方面で困難を抱えていることが示された.